

湖南

柳田国男

1875(明治8)年～1962(昭和37)年
民俗学者・民俗学者
仔細な調査と研究から、30代には民俗学を創り、民俗学を創る「野野村」など



1 「柳田国男先生紀行の道」碑

湖南町館 昭和52年
表に短歌「しをりすとたずむ道の山ぐちに 又かへりみるこしたの雲」裏に「勢至堂碑」の一節「猪苗代湖畔では東南の一隅が最も好むと思ふ」

2 話者の碑

湖南町館 昭和62年

三谷晃一

1922(大正11)年～
詩人 本宮町出身
長く福島民報社に勤務し、傍ら県詩壇で活躍
詩集「霧の記憶」で県文学賞を受賞し、福島県現代詩人会創立会賞を授かる
詩集「会津の冬」「ふるさとへかえれ かなえな」など



3 湖南頌

湖南町舟津(舟津公園) 昭和63年
「ここで真船が生まれたころ、…」

真船 豊

1902(明治35)年～1977(昭和52)年
劇作家 安積郡福良村(現郡山市湖南町)出身
アイルランド文学のシブタツの影響を受けて劇作家の道へ
戯曲「山歩道」ラジオドラマ「なだれ」など



4 真船豊文学碑

湖南町福良(青松浜) 昭和54年
「馳」の一節「な、おしま 生まれ故郷ほど せいせいすつこは ねえな」

5 真船豊生家

湖南町福良

6 「福良中学校校歌」碑

湖南町福良(福良小学校)昭和41年 「青雲輝く大空に…」

諏訪三郎

1896(明治29)年～1974(昭和49)年
作家 安積郡赤津村(現郡山市湖南町)出身
「婦人公論」の記者から作家へ進み、「大地の朝」がベストセラーに
「大地の朝」「家」「ビルディング権限者」など



7 「諏訪三郎生誕地」碑

湖南町赤津 平成5年
「大地の朝」の一節「土には生命があり 魂があり、感覚がある。…」

8 「諏訪三郎芳梅之詩」碑

湖南町赤津(諏訪神社) 昭和52年
表に漢詩「遊離彷徨五十年…」裏に夫人の俳句「つるまで かりあかさん 山ざくら」側にある諏訪神社由来の碑は、諏訪三郎の撰書

松尾芭蕉

1644(寛永21)年～1694(元禄7)年
俳人 伊賀上野(三重県)出身
蕉風俳諧を確立して俳聖と称され、日本各地を旅して紀行文や俳文を残す
「蕉の蘭語」「野ざらし紀行」など



9 芭蕉句碑

湖南町福良 明治22年
「此うみに草鞋を捨ててむ笠しぐれ」

10 芭蕉句碑

湖南町中野 明治26年
「湖やあつさをおしむ雲の峰」

伏見院

1265(文永2)年～1317(文保元)年
第92代天皇
公家政治復興に奮めた他、持明院社を確立
「玉葉和歌集」「伏見院御記」など



11 伏見院歌碑

湖南町福良(千手院) 明治16年
「こまよもすがたやしのぶ郭公 月なきよのやみになくなり」側面には地元文人たち「宮城盛至・二瓶方利」の句がある

清原元輔

908(延慶8)年～990(永祿2)年
平安中期の歌人 清少納言の父
三十六歌仙の1人で、「後撰和歌集」の撰者
家集「元輔集」



12 清原元輔歌碑

湖南町赤津(諏訪神社)
「ちぎりきなかたみに袖をしぼりつつ 諏訪の松山液越さじとは」

宮城盛至

1806(文政3)年～1896(昭和29)年
歴史家・歌人 奥州村(現西会津町)出身 本名三平
宮内卿通達により境内の「古楽諸王の地方伝説に墳墓調査」を行なう
「温故知新抄」「山陰記」「高倉宮御遺蹟考」など



13 宮城盛至歌碑

湖南町福良(隠津島神社) 明治16年
「八汐路方沖津島根留與留浪能 深き恵美爾奴留々袖哉」(八汐路の 沖つ島根に 寄る浪の 深き恵みに めるる袖かな)

郡山文学マップ

1 湖南・熱海編 —文学碑・文学者ゆかりの地—



- ア 猪苗代湖 井上靖「湖上の死」1953(昭和28)年 湖南出身の女性をめぐる小説
- イ 湖南町 子母沢寛「蘆頭市物語」1961(昭和36)年 蘆葉集「ふとちろち蛇」改題の短編
- ウ 湖南町福良 真船豊「馳」1934(昭和9)年 真船の代表作である戯曲
- エ 福良の愛宕神社 真船豊「山歩道」1941(昭和16)年 「馳」の改題後となる戯曲
- オ 勢至堂峠 柳田国男「勢至堂峠から白河へ」1916(大正5)年 明治38年に福島県内を視察したときの紀行文
- カ 母成峠 次岡孫平「母成峠」1953(昭和28)年 元禄戦争の幕府軍大島玄平への興味がもたらされた城の遺跡

こおりやま文学の森資料館
〒963-8016 福島県郡山市豊田町3番5号
TEL.024-991-7610 FAX.024-991-7620

熱海



久米正雄

1891(明治24)年～1952(昭和27)年
作家・劇作家 俳人 長野県出身
父の死によって少年時代を郡山で過ごす
安積中学校時代から「三行」誌号して俳句を始め、後に劇作家
作家として宮城 句集「夜明け」戯曲「牛乳屋の兄弟」、小説「破鏡」など



14 久米三行句碑

熱海町(磐梯熱海温泉 四季彩一力)
「一方の灯は底川に書ける」

大町桂月

1869(明治3)年～1925(大正14)年
歌人 評論家 高知県出身 本名芳南
「文芸倶楽部」「太陽」等に評論を発表した他、紀行文
も執筆でも知られる
「黄菊白菊」「阿武歌水湖の仙境」など



15 大町桂月詩碑

熱海町(磐梯熱海温泉 四季彩一力) 大正14年
「紅葉青山霞面橋 一庭石自幽清 晩來雲氣裏衝角 三尺金鱗躍有聲」